

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひらぎの学童クラブ プリズム		
○保護者評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	令和7年2月17日		～ 令和7年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	◎子どもたちが安心して通える事業所である 子どもたち一人ひとりに寄り添った支援を行うよう、職員は日頃から心がけている。どんなことがあっても大丈夫、どんなことがあってもあなた達の味方だよ、と受け止めてくれる職員の想いが伝わることで信頼関係を構築し、事業所が自分らしく過ごせる場所となつてほしいと願っている。	・一人ひとりが無理をせず、のびのびと過ごすことができるようにしている。・活動の参加は、できることから少しずつ経験を積み、褒め、しっかり自信をつけることができるようにしている。・療育室のほか何か所かスペースを用意しており、気分によっては自分で居心地の良い場所を選ぶことができるように配慮している。	・子ども自身が活動を選択したり、スケジュールを自分で決めることができるようになると良いと思う。・学童クラブと併設しているので、学童の子どもたちとも自然に交流したり、一緒に過ごしたりすることができると思う。・地域との交流をもっと盛んに行い、地域の中でも安心して過ごすことができるようにしていきたい。
2	◎保護者様、職員間の関係性 保護者様との関係性の構築を大事にしている。保護者様の想い、願い、悩みに寄り添い、共に成長を見守ることができるように、毎日のお迎え時やサービス提供記録を利用してお伝えできるようにしている。	・保護者様に子ども達の良い所、伸びた所、可愛らしかった出来事や具体的にお伝えするようにしている。保護者様と同じ想いで育ちを見守っている、ということを感じてもらえるように配慮している。・モニタリング時に、保護者様が我が子自慢ができるようにし、子育ての楽しさを再認識できるようにしている。	・今行っている対応で良いと思うので、より丁寧に行うように心がけたい。・どの職員でも同じように対応できるようになるとさらに良いと思う。・通信の発行回数を増やすと良いと思う。
3	◎対応の速さ 子どもに関わる事柄に対し、迅速な対応を心がけている。何か解決すべき事象が発生した時には、原因を明らかにし丁寧に対応するよう心掛けている。	・子ども同士のトラブルの場合、双方の言い分をしっかりと聴くようにしている。状況を明らかにし、保護者様にきちんと説明をすることで、ご理解いただくようにしている。・けが等があった時には、しっかりと良くなるように職員が引率をし通院をし、保険請求なども速やかに対応している。	・今行っている対応で良いと思うので、より丁寧に行うように心がけたい。・どの職員でも同じように対応できるようになるとさらに良いと思う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	◎保護者会の無設置、ご家族、兄弟向けの活動の少なさ 保護者会の設置を行っていない。家族が参加できる行事としては、年2回の保護者向け勉強会(講演会)、マルシェの開催、親子活動を行っている。兄弟向けの活動は行ったことがないが、個別で必要だと感じた子どもに対して対応を行った。	・保護者会を設立しない理由としては、設立してほしいという意見がないこと、必要性を感じていないことが原因としてあげられる。・家族が参加できる行事が少ないのは、働いている保護者が多いので、負担を軽減するためでもある。兄弟に対しての支援に偏りがあるのは、以前から関わりがある、ない、ということも関係していると思われる。	・兄弟児への対応は、現在は限られた子のみ行っているの、どの子どもでも参加できるように、行事のあり方などを考えていきたいと思う。・保護者向けの勉強会は特に父親の参加が少ないので、ペアレントトレーニングを来年度に向けて計画している。
2	◎子どもの療育室の狭さ 定員を今まで10名だったのを、利用希望者が増えたために20名に増やした。面積規模的には問題ないが、子どもたちが抱える特性や、身体の成長を思うと狭く感じる。保護者様、職員共に同じ意見だった。	・1つの室内を2グループに分けて支援を行っていることが原因の一つとして考えられる。小1～中学生の子どもでは、あまりにも発達差が大きく、それぞれに必要な発達課題が違いため、グループに分けて支援を行っている。また、日々の活動も違うので、活動によっては室内をより狭く感じる場面も出てくると思われる。	・再来年度に向けて、事業所を分けることも検討している。・活動を行う時に、同じようなねらいを持った活動を組まないようにする(特に動きが入る活動)・1部屋に全員がいる時間をできるだけ短くする。・使用していない部屋を有効活用する。
3	◎職員の配置数の少なさ 基準的には満たしているものの、余裕がある配置だとは言えない。個別の対応が必要な子ども達なので、一人でも多く職員が配置されていれば、より丁寧な支援を安全に提供することができると思われる。	・送迎担当職員が送り時のみしか配置されておらず、送迎時は特に多方向へ送迎に出かけるため、手薄になる事がある。・送迎車に複数子どもが乗車しているため、お送りしている時に保護者様とゆっくりお話をすることが難しいと感じることがある。	・送迎担当職員の勤務時間を長くした。・職員が、一人ひとりの子どもや保護者様と関わる時間を増やすことができるように、来年度に向けて職員を増員しようと考えている。・作業の分担、情報の伝達等、職員のチーム力を向上したり、無駄を省いたりし、より子どもと関わる時間を大事にできるようにする。